

## アドバイザースタッフ学校支援地域本部訪問



更新日：2022年12月12日

### 平成21年度 アドバイザースタッフ 学校支援地域本部訪問記録

平成21年12月17日にアドバイザースタッフ会議を開催し、アドバイザースタッフの方々に特色ある学校支援地域本部への訪問を依頼しました。依頼を受けたアドバイザースタッフは、日頃活動している校区、活動に注目している校区の学校支援地域本部を訪問取材し、訪問記録にまとめました。

#### 河内長野市立美加の台中学校区地域教育協議会〈ゆめ(ほし)まなびネット〉

日時：平成22年2月2日 木曜日

訪問校：河内長野市立美加の台中学校

アドバイザースタッフ訪問者：油谷 雅次

府教委訪問者名：石井社会教育主事

対応者職・氏名：河内長野市立美加の台中学校 宮嶋校長

学校支援コーディネーター 大谷さん、辻さん

河内長野市教育委員会 小澤主幹、篠崎主幹

#### 特色ある学校支援活動

##### □テーマ：ボランティア登録者研修および交流会

河内長野市立美加の台中学校 宮嶋校長、小松教頭

河内長野市立美加の台小学校 石黒校長、藤井教頭

美加の台中学校区学校支援コーディネーター 大谷さん、辻さん

地域ボランティアのみなさん

校区外の学校支援コーディネーターのみなさん

#### 1. 美加の台中学校区での学校支援コーディネーターの活動について

大阪府地域コーディネーター養成講座を受講終了後、地域での活動をしたと思った時、河内長野市では、校長が会長の学校主体で地域に情報を流している教育懇談会がありました。しかし学校が主体なので、ぜひ地域が主体となる地域懇談会を作りたいと考え、行政や学校と何度も相談しました。3年目で学校の校長先生のはからいをきっかけに、すこやかネットと学校支援地域本部を核に学校支援コーディネーターとして2人で関わりをすることになりました。

そこには、コーディネーターの2人の思いとその思いを熱心に受け止めていただけた河内長野市教委や学校の校長先生のご協力があってからだと思っています。

美加の台中学校区は、一つの小学校と一つの中学校の校区です。

学校支援地域本部は中学校に場所を確保され、週に2、3日、2人で学校に関わって、地域と学校をつなぐ役目として、出来ることから活動しています。ただ、学校の下請けという形になりたくないと考えています。

1. 学校の教育活動にボランティアとして参加いただける方を募集する「ボランティア登録」を進められ、現在74名の登録があります。
2. 地域の見守り隊活動として「安全パトロール」を実施しています。

以前からの活動ですが、これを本部事業として取り込みました。しかし地域の既存団体との調整にはいろいろな問題があり、4か月という時間がかかりましたが、今では270人の地域の人の支援があります。このことが地域の団体と学校と一緒に活動することが大事で、コーディネーターの大切な仕事であると学んだと同時に地域のすこさを学校にもわかってもらうことにもなりました。

### 3. 小、中学校の学校授業の補助活動として

- 1-社会見学や遠足の引率補助
- 2-合唱コンクールを市の大ホールですること、ステージと観客の一体となった成功体験
- 3-毎週2回 10名で交代して行っている図書室ボランティア
- 4-美術授業として準備室の整理やコンクール出展準備
- 5-美加中の先輩大学生、保護者による「チャレンジ教室」放課後学習支援
- 6-「ゆめ(ほし)まなびN E W S」の作成と全戸配布
- 7-遊具のペンキ塗りのP T A環境整備奉仕作業

人の繋がりが出来たことで、学校の要望にも応えられるようになってきました。きっかけは、校長先生が一步を踏み出してもらえたことが大きな力となりました。

これからもコーディネーターの可能性のある方法を学校に提案し、学校や先生の支援をしていきます。

## 2. 研修風景

今回の研修では、40名以上のボランティアが出席し、自己紹介の中でいろいろと学校支援に参加している様子がうかがわれました。研修には、美加の台中学校区以外の校区からの学校支援コーディネーターも出席していたことも大変いい研修方法でありました。

## 3. アンケート調査集計結果

研修会で発表されたアンケートは、現状の把握やこれからの方針にむけて大変時期を得た良い実施であったと考えました。美加の台中学校区だけではなくこのような取組みをしている他の学校支援地域本部にも参考になる貴重なデータ集計でありますので、参考情報として、是非公開してほしいと思います。

### 問1 学校支援ボランティアを行う「きっかけ」になったこと

この質問の結果から、「学校支援地域本部からのボランティア募集のチラシ」と「コーディネーターからの個人的に声をかけられて」という比率が高かったことでした。

この結果から見えてくることは、学校の情報も地域の情報も全くと言っていいほど双方の間では知らないし、伝わっていないという現実があるということです。その状況の中で、誰かが情報を伝えることの必要性和伝える方法に注目したいと考えます。情報伝達が今やPCが発達した現在では、より早く、広く、大量の情報伝達が可能となっています。しかし、それに頼ってしまうと、データだけが一方的に配布されるだけで、その中身や伝えたい気持ちまではなかなか伝わりにくいのではないのでしょうか？特にいろいろな価値観を持っている地域に情報を伝える場合、誰が何をどのような方法で発信するのか？がポイントだと思います。

今回の場合、伝える人（支援地域本部ボランティア）が情報元（学校）や伝えたい先（地域）とつながるという構図が多様な価値観を「できることから」「できる人に」おだやかに伝える原点に近い方法だと思われます。そして伝える方法は、地域間で賛同を得たりとか参加を募集したりとかボランティア参画についてとかは、その目的だけを文字で伝えることだけでは不十分で、お互いの信頼関係による呼びかけによるコミュニケーションをもって情報伝達を同時にすることが重要となるのではないのでしょうか。つまり、文字と声かけというデジタルとアナログ方法の両方が必要だと思いました。

他の質問についても重要な内容がふくまれていました。

## 4. ボランティア登録について

地域で特技を持った人や何かができる人を登録し、学校や地域に必要な人材を派遣するというシステムは、新しい人材発掘とその活用という意味では一つの方法であります。しかし、この手法は今まで多くのところで実施されてきましたが、そこでの課題もありました。

それは特別な人の登録制度となり、特別なことだけを希望する依頼者が増えてきたときに、特技の無い人の活用が少なくなったり、登録者の間で格差ができることです。また特技を持つ人が特別扱いになれてしまい、ボランティアとしての意識が無くなってしまったりすることがありました。それ以上に「できる人が、できることを、できるときに、だれでもが必要な人」という方針が、何も出来ない人がそこには参加できなくなっていく場合があります。

このように登録者や実施回数が増えてきたときには、取り組み方法やその内容についてコーディネーターが注視していく必要があると考えます。学校を支援する人は、「地域の全ての人である」という立場は絶対に失ってほしくないと願います。

私は学校へ「いつでも、だれでも、何も無くても、学校が開けられ誰でも行くことができること」が基本だと考え、見守ることだけでも学校支援ボランティアであると考えています。そして学校がいつも開かれ、地域の人が学校にいつも行くことで、学校が身近になり、そこにいる子どもに関心を持つことだと思います。そして最も大切にしたいのは、子どもにいろいろな大人が学校の周りにはいて、みんなのことを私たちが見守っているよということを知ってもらいたいと考えています。

## 5. 活動拠点について

- ・活動拠点は、美加の台中学校のカウンセリングルームを使用した専用室がある。
- ・カウンセリングルーム横に、外へ通じる扉があり教室前廊下を通らずに出入りが可能である。
- ・現在は、机、イス、ソファ、パソコン等が設置されており、今後緊急対策事業の備品等について導入を準備中。

交流会の様子



交流会を進行する学校支援コーディネーター



自己紹介する参加者



グループで意見交換して交流



他グループの意見を聞く参加者

活動拠点の様子



生徒が書いたカードを壁面に掲示



コーディネーターの活動用机、コンピュータ

このページの作成所属  
[教育庁 市町村教育室地域教育振興課 地域連携グループ](#)



[1つ前のページに戻る](#)

[このページの先頭へ](#)

[ホーム](#) > [大阪府の学校支援地域本部](#) > [アドバイザースタッフ学校支援地域本部訪問](#)

[お問い合わせ](#) [ユニバーサルデザインについて](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [このサイトのご利用について](#)

**大阪府**  
(法人番号  
4000020270008)

本庁 〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目 (代表電話) 06-6941-0351  
咲洲庁舎 〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 (代表電話) 06-6941-0351

[大阪府庁への行き方▶](#)